



マレーシアに住んで

クアラルンプール日本人学校 池田 隼人

令和3年度にマレーシアに派遣されました。コロナ禍でロックダウンの真っ只中での派遣でしたので、かなり緊張した日々が続きました。隔離先のホテルでの生活やか細いWi-Fiで行っていたオンライン授業のことはあまり思い出したくありません。

だんだんと規制が緩和されていき、少しずつ外に出られるようになってくると、街の様子や、どんな国なのか、少しずつ見えてきました。

この3年で私が感じた、マレーシアについてお話しさせていただきます。

①他者の文化に寛容

マレーシアは大きく3つの民族に分かれます。マレー系、中華系、インド系で、それぞれルーツが違います。それぞれの文化がうまく混ざり合い、生活しています。国を挙げてのお祭りもそれぞれの文化が反映されており、日本の祝日とは違ったお休みになります。日本で感じるようなみんな同じ！という連帯感とは少し違い、「相手は文化が違うかもしれない」という前提があります。なので、違うことに対して忌避感がなく、お互いの違いを当たり前を受け入れられています。

かといって、それぞれの文化同士で全く関わりがないというわけではありません。街中では様々な国の料理が食べられ、マレー系と中華系が混ざり合ったニョニャ料理など、美味しい食事につながっているところも魅力の一つです。

②意外と厳しくない？イスラム教

マレーシアはイスラム教が国教です。イスラム教と聞くと、過激派だったり、戒律の厳しさだったり、怖い宗教だというイメージがあると思いますが、実際に現地の方の話を聞くと意外とそうでもないことが分かってきました。豚肉禁止、お酒禁止、とダメなものも多いのですが、人間ですからつい手を出してしまいたくなることもあります。そんな悪いことをしてしまった際には、お祈りの時に神様にきちんと謝れば許してもらえそう。宗教ですから、当然様々な捉え方や信仰の仕方があるので、私の聞いた話が全てではありませんが、この絶妙な緩さが好きです。

この国で体験した寛容さには教員としても一個人としても大きな影響を受けました。マレーシアの日々で感じたことを、これからの教員生活に活かしていきたいです。



マレーシアやインド、中国の伝統衣装を着る「民族衣装デー」があります。



マレーシアと中華料理が合わさったような「ニョニャ料理」



お祈りをするモスクの中は大変美しいです。